

平成28年度一般採用試験前期

国語試験問題

(人文・社会科学専攻)

(注意)

- 試験時間中は、すべて試験係官の指示に従うこと。
- 設問ごとに記載してある解答方法の指示に従い、マークセンス解答用紙又は記述式解答用紙に記入及びマークすること。(記述式の問題は、すべて黒枠で囲った形で示されているので注意すること。)
- 古文及び漢文は、1つの本文の設問中にマークと記述の両方が含まれているので注意すること。

(マークセンス注意)

- マークセンス問題解答用紙の注意事項を確認のうえ、例にならって氏名及び受験番号を解答用紙に必ず記入及びマークすること。

例 【氏名】防大 極 【受験番号】神奈川人W1234 の場合

*氏名及び受験番号の記入について

	姓	名
フリガナ	ボウダイ	ナギサ
漢字	防大	極

	志願地本名	専攻区分	番号
受験番号	神奈川	人	W1234

*受験番号等のマークについて(女子受験者は、番号のWについてはマークしなくてよい。)

札幌	01	福島	10
函館	02	茨城	11
旭川	03	栃木	12
帯広	04	群馬	13
青森	05	埼玉	14
岩手	06	千葉	15
宮城	07	東京	16
秋田	08	神奈川	17
山形	09	新潟	18

専攻区分
人社
理工
性別
男
女

番号			
0	0	0	0
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9

- 解答方法は、択一式であり、設問ごとの指示に従い、解答用紙の解答マーク欄にマークすること。
例えば、①と表示のある問題に対して(3)と解答する場合は、次の例のように①の解答マーク欄の③にマークすること。

例	解答マーク欄				
	1	1	2	3	4

(記述式注意)

- 各問題の設問の数に注意すること。
- 解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄におさまるように記入すること。
なお、一行に相当する枠に、二行以上にわたって記入しないこと。正しく記入していない場合には採点されないので注意すること。
- 解答中の誤字(仮名づかいの誤りも含む)は、その程度に応じて減点する。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができますので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

*(注) 現代——この本文を含んだ論考が発表されたのは一九六八年である。

ニヒリズム——虚無主義。人間が存在する価値は本質的には無いと考える思想。

シュクレール——ジュディス・N・シュクレーのこと。アメリカの政治学者。

ボールディング——ケネス・E・ボールディング。アメリカの経済学者。

コンテクスト——意味上の脈絡。文脈。

米山俊直——日本の文化人類学者。

核家族——親と子供の世代のみで構成された家族。

北爆——ベトナム戦争における、アメリカ軍による北ベトナムへの大規模な爆撃のこと。こ

れ以降ベトナム戦争は泥沼化してゆく。

ユエ——ベトナム中部の都市。「フエ」とも表記される。

イントレビッド・フォア——一九六七年にアメリカ海軍の空母イントレビッドから脱走し
スウェーデンに亡命した四名の兵士のこと。この脱走・亡命事

件の背後には、当時高まりつつあったベトナム戦争反戦運動
があつた。

「マークセンス」

1	空欄	A	B	C
---	----	---	---	---

にそれぞれ入る語の組み合わせとして、

本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を
解答用紙にマークせよ。

- (1) A 有限 B 社会 C 個人
(2) A 相対 B 此岸 C 彼岸
(3) A 鼎立 B 建設 C 破滅
(4) A 限界 B 能動 C 受動
(5) A 多様 B 理念 C 超越

2 空欄

D に入る言葉として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを
次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 戰争と政治との制度的癒着
(2) 宗教と権力との抑圧的関係
(3) 政治と国家との相互的矛盾
(4) 信仰と制度との本質的乖離
(5) 国家と宗教との葛藤的性格

3

傍線部(ア) 「現代の日本社会で起つてゐること」の具体的な内容として、本文の論旨に照らして、最も不適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 旧来の大家族的な「家」共同体の求心力が衰退し核家族化して、そこで私的欲望が突出する事態が浮上している。
- (2) 従来の農村地域内の繋がりが変容し、農業自体も技術的に新たな形態を示しつつあるといふ「園芸化」が進行している。
- (3) 旧来の村落共同体は解体され、価値観を一元化しがちな企業体の内部に、個人や家族の共同性が内包されつつある。
- (4) 「通勤化」により旧来の村落共同体の文化的脈絡から現在の農村が乖離し、新たに企業共同体が中心となりつつある。
- (5) 特定の政治勢力に企業共同体が利用され、その共同体の職縁から疎外されてしまうという状況に個人が直面している。

4

傍線部(イ) 「焼身抗議のもつパラドックス」についての説明として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 社会的抗議と宗教的熱情は焼身抗議という行為を構成する要素であるが、本質的には前者こそが重要であるといふこと。
- (2) 本質的に焼身抗議は反社会的で普遍性の欠如した行為であり、仏教の倫理観においては許容されることはないといふこと。
- (3) 政治権力の枠内では、焼身抗議のような宗教的行為は常に抑圧されるものであり、社会的効力を持ち得ないといふこと。
- (4) 焚身抗議は信仰の表白としての性格が強いので、政治的有効性という現実領域との接点において矛盾が生じるといふこと。
- (5) その悲劇性ゆえに、焼身抗議は「王法」の世界での社会的行為というそのままの意義を逸脱して受容されたといふこと。

本文の論旨に照らして、最も適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) ベトナム戦争の泥沼化によって顕在化しつつある人類の倫理的な問題は、根源的な政治悪といふべき主権国家同士の対立によって必然的に生み出された、亡命や抗議などの世界市民的な社会運動において克服されるべきものである。
- (2) ソクラテスは自らにかけられた裁判を批判して死刑したが、その批判は普遍的な超越性を持つものではなかったのであり、当時の法律を本質的に批判し得なかつたその悲劇的なあり方は、現在の個人と社会の関係にも通じるものである。
- (3) 値値選択がニヒリズムに支配され、科学と國家という原理も未だ強力に機能する今日の世界では、単に旧来の宗教的伝統を継承するだけでは不十分であり、そこでは個人の経験と意識を重視した「実験的宗教」の試みが求められている。
- (4) 宗教とは、本質的に人類的な普遍性をその存立の条件とすべきものであつて、「國家」や「自然」とも共存しつつ、人間の倫理的な生活をそこで調和的に維持し、人間の世界観自身を総合化して統一するようなものでなければならない。
- (5) 亡命という行為は、個人の恣意的判断や主觀的思い込みに基づいた倫理的行為であるが、それは政治・社会的存在としてのその当事者の存在意義を喪失させ、その行為自体の倫理性を否定してしまうという逆説性を孕んだものである。

（記述式） 現代文 (一) (七) 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

ハイカルチャ——近代以降に確立され、芸術として権威化してきた近代文学や美術、演

*(注) 日本の復興文化の系譜——この本文は、日本の古代から現代までの文化を「復興文化」という観点から論じた一連の論考の一節である。

山崎正和——評論家、演劇研究者。明治期・大正期の文学について多く論じている。

白樺派——明治末に刊行された同人誌『白樺』に集った武者小路実篤、志賀直哉、有島武郎などの、個人主義・理想主義的な傾向を共有していた文学者達を指す文学史用語。

ホモソーシャル——主に男性同士の強固な連帯。均一化され、他者性を許容しない社会集団。

任侠映画——主に「一九六〇—七〇年代の日本で流行した映画ジャンル。主に「やくざ」と呼ばれる反社会的男性集団内の「仁義」や「糾」を描いている。

B.L——主に漫画やアニメや同人誌等のメディアでファンタジーとして描かれる、男性同志の恋愛。

漱石の「不平等な兄弟」——「それから」「行人」「いじう」等の夏目漱石の小説に登場する。

当時の家制度に孕まれた不平等を暴き出し、そこに「他者」を生み出すような兄弟関係。あるいはそれに擬された他者との関係のことを指す。

フリードリッヒ・シュレーゲル——ドイツの思想家、評論家、作家。

アイロニー——ドイツ・ロマン派における美学上の概念。同派で主張された、芸術に対する態度を指す。

「ほかひびと」——各地を放浪しながら地域に語り継がれた歌や物語を伝える芸能者的な人々。

劇を指す。漫画やアニメ、ポピュラー音楽等のサブカルチャーに対する概念。

（記述式）

〔一〕 片仮名傍線部（1）～（5）について、それぞれ漢字二文字に直して記せ。

- (1) チュウスウ (2) エイビン (3) メツタ
(4) クシ (5) テイサイ

〔二〕 波線部（1）～（5）の漢字について、それぞれその読みを平仮名で記せ。

- (1) 召喚 (2) 短激 (3) 謐諒 (4) 悩説 (5) 諧謔

〔三〕 点線部（あ）～（え）について、それぞれその読みを平仮名で記せ（漢字部

- (あ) 糜 (い) 痴ろ (う) 惨め (え) 娄えて

〔四〕 空欄 I に入る言葉として、最も適当と思われるものを次からひとつ選び、番号で記せ。

- (1) 孤独で不機嫌な「わたし」
(2) 親密で欺瞞的な「われわれ」
(3) 曖昧で不合理な「わたし」
(4) 怯懦で匿名的な「われわれ」
(5) 無知で集団的な「われわれ」

〔五〕 空欄 II に入る言葉として、最も適当と思われるものを次からひとつ選び、番号で記せ。

- (1) 去をまねぶ
(2) 奇をてらう
(3) 身をやつす
(4) 鋸をきどる

（5） 我をとおす

〔六〕 本文の趣旨に沿うものとして、最も適当なものを次からひとつ選び、番号で記せ。

（1） 太宰治の文学は、「道化」の論理を実行することによって小説作品に内在する形式を模索し、社会から「わたし」を隔離することに成功したのだが、「芸術の不毛地帯」としての日本固有の文化風土を超克することはできなかった。

（2） 夏目漱石の文学が持つ批評性は、男性同士の「友情」の欺瞞性を洞察し、そこで形作られている偽装的共同性のかたちを正確に指摘した点にあつたのであり、それは日本社会固有の「集團主義」という性格を暴き出すものだった。

（3） ロマン主義とは、人間存在の中に単独性や固有性を求める、「未知なるもの」を現実の裡に発見してゆこうとする主体的態度の一つであつて、芸術作品それ自身を、絶対的で永遠の価値がある存在として崇拜するようなものではない。

（4） 王朝時代の日記文学における「物語批判」は、「更級日記」の主人公の姿からも窺えるように、現実に直面することで物語というファンタジーを脱し、現実に即したりアリズムに帰還するという自己の成熟を表したものであった。

（5） ホモソーシャルな関係性の共同体への欲求は現代日本のサブカルチャーにも依然として継承されているが、それに対し、男性主人公と「他者」としての女性との恋愛という、品位と尊嚴を求める倫理的主題は常に軽視されてきた。

(七) 本文で論じられている「日露」「戦後」から「敗戦後」までの日本文学の

特徴を、六十字以上八十字以内で概括せよ。なお、本文中の語句は用いてよいが、本文からの抜き出しのみ、あるいは本文から抜き出した語句や文章を組み合わせただけの解答は認められない。

マークセンス

658

記述式 古文 (一)-(四) 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

マークセンス

二重傍線部「世々の集にもその歌ども多く見え」とあるが、これに当ては
まらない歌は次のどれか。

- (1) 天つ風雲の通ひ路吹き閉ぢよ乙女の姿しばしとどめむ 遍昭
(2) 今来むと言ひしばかりに長月の有明の月を待ち出でつるかな 素性
(3) あらし吹く三室の山のもみぢ葉は竜田の川の錦なりけり 能因
(4) 夜もすがら物思ふころは明けやらぬ寢屋のひまさへつれなかりけり
(5) 歎けとて月やは物を思はするかこち顔なるわが涙かな 俊惠 西行

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

7

以下の選択肢(1)～(5)は、本文傍線部(1)～(5)に対応する現代語訳である。
それぞれの現代語訳として最も適当なものは次のどれか。

- (1) ただ哀れに思う悲しみの心を第一のこととして、心に思い余ることはどのようにでも詠む世界なのである。
(2) それはなおさら強引に隠した外面上の身の行いでもあるだろうし、法師だからといって、一般人と心の動きが全く異なるはずのものでもない。
(3) 心の底まで清らかに澄み切っていることはとてもありえないはずで、むしろ俗世の濁った心も残っていて当然のことであるから。
(4) ことに執着が止むということだけはないであろうが、法師も少しは心ひかれるのもそれほど罪があるわけでもなく、
(5) それを限度のある花や紅葉さえ愛する心があるので、限度もない女の色氣をどうして美しいと思うべきでないと言えよつか。

* (注) とりはづしては——失敗しては。

道かひにて——すれ違いに。

「重波線部「そはなかなか罪重かるべきわざなり」と筆者が語る理由として、本文の論旨に照らして、最も適当なものは次のどれか。

- (1) 世間をも自分自身をも偽る」とになるから。
- (2) 恋愛そのものを全否定することになるから。
- (3) 文学を儒教・仏教より価値が低いとするから。
- (4) 仏教の恋愛への戒めを軽んずることになるから。
- (5) 僧にもあるはずの欲望を無視しているから。

（記述式）

(一) 空欄 A C に入る言葉として、本文の論旨に照らして、

最も適当なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、その番号を記せ。

- | | | | | |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| A (1) 法師 | (2) 菩薩 | (3) 凡夫 | (4) 歌人 | (5) 女人 |
| B (1) 花 | (2) 色 | (3) 執 | (4) 恋 | (5) 罪 |
| C (1) 行ひ | (2) 理り | (3) 障り | (4) 傷り | (5) 惑ひ |
- (二) 点線部「この聖のふるまひ」を、最も具体的に示した箇所の最初と最後を、本文中から五文字ずつ抜き出せ。

- (三) 以下は波線部の問い合わせに対する、本文の論旨を踏まえた要約である。空欄1~3に適当な漢字二文字をそれぞれ補え。

仏教の教えでは、法師が恋をすることは(1)上許されないが、和歌は(2)を表現するもので、(1)の制約を受けるものではない。むしろ、(2)といふ点では、恋をすることを禁じられている法師にもそれは多くあるものである。和歌のようないくつかは(1)とは別の評価基準を持つものなのである。

- (四) 本居宣長は、江戸時代中期に活躍した国学者である。(ア)宣長の書き著した書物を一つ記せ。ただし、「石上私淑言」は除く。(イ)また、宣長と同時代に文学上活躍した人物は誰か。次の中から一つ選び、番号で記せ。

- (1) 井原西鶴
- (2) 松尾芭蕉
- (3) 与謝蕪村
- (4) 滝沢馬琴
- (5) 鶴屋南北

〔記述式〕 漢文 (一) 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

* (注) 従五位上行掃部頭 — 「従五位上」は位階。「行」は、官位相当制にあつて位階に対しても官

職が低い場合に、官職の上につけられる。「掃部頭」は官職名。掃部寮の長官。

刑部卿 — 刑部省の長官。
鼓 — 楽器を演奏する。

承和二年——西暦八三五年。

美作様兼遣唐使准判官——「美作様」は美作國（今の岡山県北東部）の三等官。「遣唐使准

判官」は遣唐使における大使、副使、判官などの官職の一つ。

兩三調——一、二、三曲。

謝鎮西——晋代の琵琶の名手。謝尚。

聘礼——遣唐使としての務め。

纏——ともづな。船を陸につなぎとめる繩。

祖筵——送別の宴席。

紫檀・紫藤——いずれも琵琶の材料として使われた。

マークセンス

9

- 空欄 a → c に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次より選
び、その番号を解答用紙にマークせよ。
- (1) a 崩 b 唐 c 時
(2) a 卒 b 和 c 時
(3) a 崩 b 韓 c 別
(4) a 卒 b 唐 c 別
(5) a 崩 b 韓 c 海

10

本文の内容に照らして最も適当なものを次より選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 唐に渡ったのち、劉二郎について琵琶を学んだ貞敏は、一二三か月の間に琵琶の主要な曲を習得し、劉二郎の娘との結婚を願い出た。
- (2) 貞敏の帰国に際して、劉二郎は送別の宴を催し、紫檀と紫藤の琵琶を各一面贈つたが、帰国後、これらの琵琶は帝に献上された。
- (3) 貞敏は、琵琶の奏法の習得の早さに驚いた劉二郎から師の名を問われ、琵琶の演奏は代々の家風であり、とくに師と云うものはない、と答えた。
- (4) 貞敏は、少年時に琴について学んだが、それよりも琵琶を好み、更なる技能習得のため遣唐使として唐に渡つて劉二郎に師事することとなつた。
- (5) 劉二郎は、自分の娘を貞敏に嫁がせ、琵琶の奏法を習わせたが、貞敏が帰国しなければならなくなり、娘の形見として琵琶を贈つた。

（記述式）

- (一) 傍線部(一)(2)(4)の読みを平仮名で答えよ。
- (二) 傍線部(3)「贈砂金二百両」とあるが、なぜそのようなことをしたのか、十五字以内で簡潔に答えよ。
- (三) 波線部「一言斯重、千金還輕」を現代語訳せよ。
- (四) 二重傍線部「以能弾琵琶歴仕三代」は「能く琵琶を弾くを以て三代に歴仕す」と訓読する。正しく返り点を付けよ。